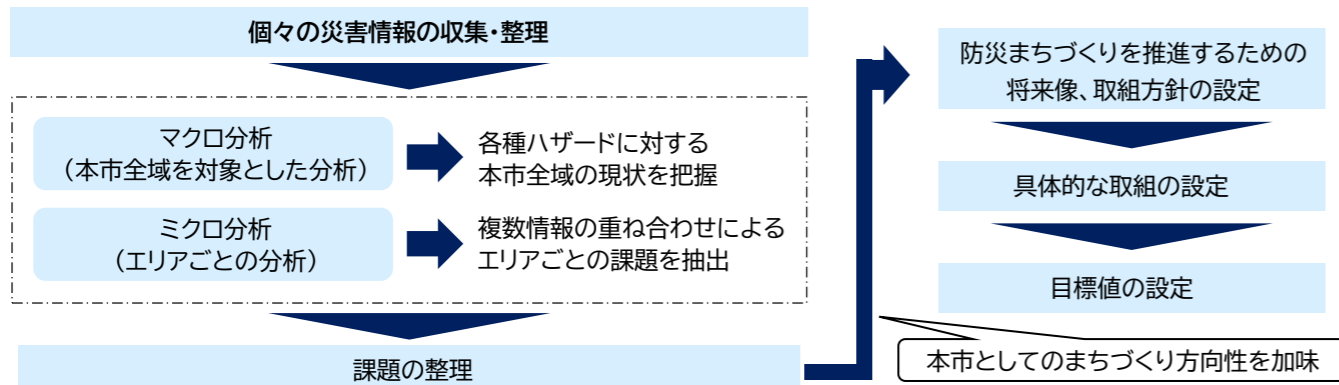


(1)防災指針の検討内容(本編 P114)

主に居住誘導区域内で行う防災対策・安全確保策を定めるものであり、居住や都市機能の誘導を図るうえで必要となる都市の防災の機能確保に関する指針であり、このため防災指針の検討にあたっては、

- ① 立地適正化計画の対象とする地域の災害リスクの分析、災害リスクの高い地域の抽出
- ② リスク分析を踏まえた居住誘導区域の設定や、既に設定している居住誘導区域の見直し
- ③ 居住誘導区域における防災・減災対策の取組方針及び地区毎の課題に対応した対策の検討を行うことが必要です。本市は、誘導区域以外や市街化調整区域においても多数の集落があるため、本市全域を対象として災害リスクを明確にし、そのリスクを回避・低減するための取組方針等を設定し、各分野の取組を明示します。

〈防災指針策定の流れ〉

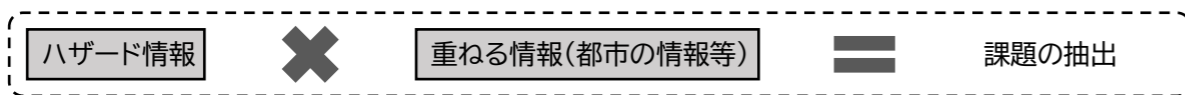


(2)災害ハザード情報の収集・整理、都市の情報との重ね合わせ分析(資料編を参照)

公表されているハザード情報と建物の立地状況等といった都市の情報とを重ね合わせ、それぞれの災害に対して想定し得る課題を抽出します。

重ねる情報		概要
建物	階数	浸水深よりも高い箇所に居室があり、垂直避難が可能かどうかを把握
	立地状況	土砂災害や氾濫流、河岸浸食により、倒壊の恐れがないかを把握
指定緊急避難場所(500m圏域)		指定緊急避難場所までの距離を踏まえ、容易に避難ができるかどうかを把握
要配慮者利用施設の立地状況		防災上の配慮を要する人が利用する施設の立地状況を把握
主要公共施設(市役所、警察署等)		災害が発生した際に指令拠点としての機能を担う施設が、機能不全にならないかを把握
道路の状況		災害時に避難路としての機能を有するか、機能不全となった際に他の道路が迂回機能を有するかを把握

ハザード情報と重ねる都市の情報、分析の視点については、以下の内容を整理します。



ハザード情報	重ねる情報(都市の情報等)	分析の視点
浸水想定区域(洪水、内水、ため池、高潮)	建物階数の状況	浸水の被害を受ける建物について、垂直避難が可能かを把握
	指定緊急避難場所・指定避難所の立地状況	浸水の影響を受ける建物の近隣に指定緊急避難場所があるかを把握
	要配慮者利用施設の立地状況	浸水の影響を受ける範囲内に要配慮者利用施設があるかを把握
	主要公共施設の立地状況	浸水の影響を受ける範囲内に指令拠点としての機能を担う施設があるかを把握
	道路の状況	浸水被害の影響を受ける道路があるか、周囲に迂回機能があるかを把握

ハザード情報	重ねる情報(都市の情報等)	分析の視点
家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流、河岸浸食)	建物の立地状況 要配慮者利用施設の立地状況	氾濫流や河岸浸食により、建物や要配慮者利用施設が倒壊、流失する危険性がないかを把握
浸水想定区域(津波)	建物の立地状況 指定緊急避難場所・指定避難所の立地状況	浸水の影響を受ける建物の近隣に指定緊急避難場所・指定避難所があるかを把握
土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域	建物の立地状況	土砂災害の影響を受ける範囲内に建物が立地しているかを把握
	指定緊急避難場所・指定避難所の立地状況	土砂災害の影響を受ける建物の近隣に指定緊急避難場所・指定避難所があるかを把握
	要配慮者利用施設の立地状況	土砂災害の影響を受ける範囲内に要配慮者利用施設があるかを把握
	道路の状況	土砂災害により寸断される可能性のある道路があるか、周囲に迂回機能があるかを把握

〈分析の一例(想定浸水深(想定最大規模)×建物階数の状況)〉

災害リスクの高い箇所の抽出の一例として、以下の図面は想定浸水深(想定最大規模^{※1})及び垂直避難^{※2}が困難な建物、要配慮者施設等を重ね合わせた図です。

洪水浸水想定区域の浸水深 3.0m以上の箇所では、1階建ての建物が垂直避難で対応ができなくなります。それらの箇所が、釣川沿岸においてみられます。

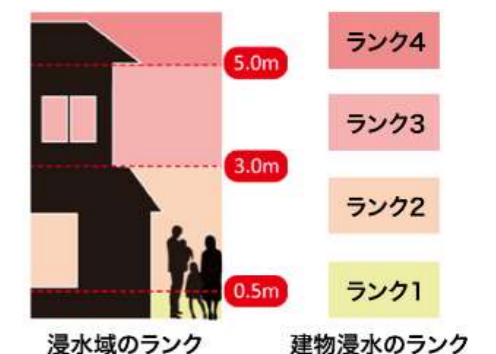
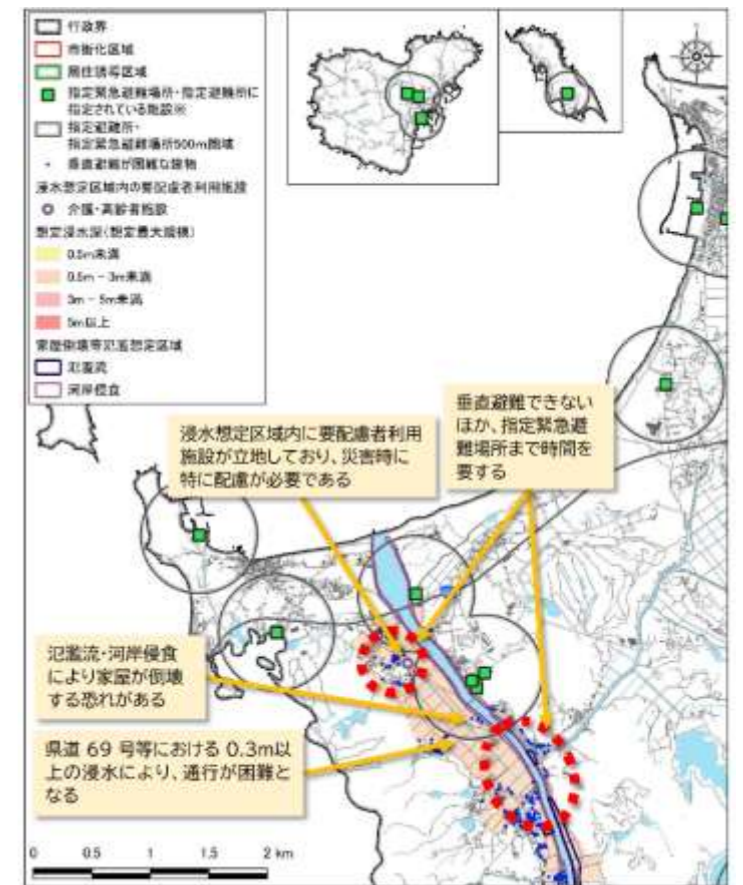
※1:想定最大規模とは、「想定しうる想定しうる最大規模の大雨」を想定しています。

1000年に1回程度の規模を想定しており、1年間の間に発生する確率が1/10(0.1%)以下の降雨です。

毎年の発生確率は小さいですが、規模の大きな降雨であることを示しています。

※2:垂直避難とは、急激な降雨や浸水により屋外での歩行等が危険な状態になり、浸水による建物の倒壊の危険がない場合には、自宅を立ち退き避難所へ避難することが必ずしも適切な行動ではなく、自宅や隣接建物の2階等へ緊急的に一時避難をすることです。

浸水深が3.0mを超える場合は、垂直避難も困難な状態になります。



(3)防災上の課題の整理(本編 P147~P150)

エリアごとのマイクロ分析にあたっては、市域全域を網羅するため、各指標を重ね合わせ、課題となる箇所と対応方針を整理します。なお、宗像市は市域が広いので、市域を下図の通り5つのエリアに区分し、課題を確認します。(エリアの詳細は本編「第8章 防災指針」P146を参照)

対象エリア	課題	ハザード						
		洪水 (計画規模)	洪水 (最大規模)	内水	ため池 浸水	高潮	津波	土砂 災害
北部 エリア1	① 国道495号や県道69号等における0.3m以上の浸水により、通行が困難となる	○	○	○	○	○	—	—
	② 垂直避難できないほか、指定緊急避難場所まで時間を要する	○	○	○	○	○	○	—
	③ 浸水想定区域や土砂災害警戒区域等に要配慮者利用施設が立地しており、災害時に特に配慮が必要である	—	○	—	○	○	○	○
	④ 氾濫流・河岸侵食により家屋が倒壊する恐れがある	—	○	—	—	—	—	—
	⑤ 土砂災害警戒区域内・土砂災害特別警戒区域内に住宅が多数立地しており、指定緊急避難場所まで時間を要する	—	—	—	—	—	—	○
北部 エリア2	⑥ 国道495号における0.3m以上の浸水により、通行が困難となる	—	—	○	—	—	—	—
	⑦ 垂直避難できないほか、指定緊急避難場所まで時間を要する	—	—	○	○	○	○	—
	⑧ 浸水想定区域や土砂災害警戒区域等に要配慮者利用施設が立地しており、災害時に特に配慮が必要である	—	—	—	—	○	—	○
	⑨ 土砂災害警戒区域内・土砂災害特別警戒区域内に住宅が多数立地しており、指定緊急避難場所まで時間を要する	—	—	—	—	—	—	○
南部 エリア1	⑩ 垂直避難できないほか、指定緊急避難場所まで時間を要する	○	○	○	○	○	—	—
	⑪ 浸水想定区域や土砂災害警戒区域等に要配慮者利用施設が立地しており、災害時に特に配慮が必要である	○	○	○	○	○	—	○
	⑫ 宗像市役所が浸水する恐れがある	—	○	—	—	—	—	—
	⑬ 氾濫流・河岸侵食により家屋が倒壊する恐れがある	—	○	—	—	—	—	—
	⑭ 旧国道3号や県道97号の浸水により、交通麻痺の恐れがある	—	○	—	○	—	—	—
	⑮ 旧国道3号の0.3m以上の浸水により、交通麻痺の恐れがある(近年、道路冠水等が報告されている)	—	—	○	—	—	—	—
	⑯ 土砂災害警戒区域内・土砂災害特別警戒区域内に住宅が多数立地しており、指定緊急避難場所まで時間を要する	—	—	—	—	—	—	○
南部 エリア2	⑰ 指定緊急避難場所及び周辺が浸水する恐れがある	○	○	—	—	—	—	—
	⑱ 垂直避難できないほか、指定緊急避難場所まで時間を要する	○	○	○	○	○	—	—
	⑲ 駅周辺の浸水により、交通麻痺の恐れがある	○	○	—	○	—	—	—
	⑳ 浸水想定区域や土砂災害警戒区域等に要配慮者利用施設が立地しており、災害時に特に配慮が必要である	○	○	○	○	○	—	○
	㉑ 指定緊急避難場所(サンリブくりにいと宗像)が河岸侵食により倒壊する恐れがある	—	○	—	—	—	—	—
	㉒ 宗像市役所が浸水する恐れがある	—	○	—	—	—	—	—
	㉓ 氾濫流・河岸侵食により家屋が倒壊する恐れがある	—	○	—	—	—	—	—
	㉔ 駅周辺の浸水により、交通麻痺の恐れがある(近年、道路冠水等の浸水が報告されている)	—	—	○	—	—	—	—
	㉕ 指定緊急避難場所(河東小学校)及び周辺が浸水する恐れがある	—	—	—	○	—	—	—
	㉖ 土砂災害警戒区域内・土砂災害特別警戒区域内に住宅が多数立地しており、指定緊急避難場所まで時間を要する	—	—	—	—	—	—	○
南部 エリア3	㉗ 垂直避難できないほか、指定緊急避難場所まで時間を要する	○	○	—	○	—	—	—
	㉘ 河岸侵食により家屋が倒壊する恐れがある	—	○	—	—	—	—	—
	㉙ 浸水想定区域や土砂災害警戒区域等に要配慮者利用施設が立地しており、災害時に特に配慮が必要である	—	○	○	○	—	—	○
	㉚ 駅周辺の浸水により、交通麻痺の恐れがある(近年、道路冠水等の浸水が報告されている)	—	—	○	—	—	—	—
	㉛ 駅周辺の浸水により、交通麻痺の恐れがある	—	—	—	○	—	—	—
	㉜ 国道3号の浸水により、交通麻痺の恐れがある	—	—	—	○	—	—	—
	㉝ 駅周辺の道路が土砂災害により、通行止めとなり交通麻痺の恐れがある	—	—	—	—	—	—	○
	㉞ 土砂災害警戒区域内・土砂災害特別警戒区域内に住宅が多数立地しており、指定緊急避難場所まで時間を要する	—	—	—	—	—	—	○

(4)個別の取組内容とスケジュール(本編 P153)

前項で整理した取組方針に基づく施策を整理し、実施主体や実施時期の目標について、下表に示します。施策の整理にあたっては「宗像市国土強靱化地域計画 令和5年度年次計画」や「宗像市地域防災計画」、「宗像市雨に強いまちづくりビジョン(雨水管理総合計画)」ならびに各個別の計画とも連携しながら整理します。

また、実施時期の目標について、リスクの低減に資するハード対策は計画期間である20年間の中で、早期に実施すべき箇所などを検討し、適宜取組を推進します。一方、避難体制や情報伝達などのソフト対策については、短期での対応が想定されますが、その後も継続的に実施していきます。

視点	方向性	災害ハザード						取組施策	主体			対象エリア	
		洪水 (計画規模)	洪水 (最大規模)	内水	ため池 浸水	高潮	津波		土砂 災害	福岡県	宗像市		市民 事業者
災害リスクの回避	防災体制の充実・避難		●					① 市庁舎が建物損壊等により機能を全うできないときは、宗像ユリックス、メイトム宗像(市民活動交流館)の順で、いずれかの施設に本部室を確保		●			東郷地区
災害リスクの低減(ハード)	インフラ等整備	●	●	●				② 河川の浚渫等(流下能力の維持)	●	●			市全域
		●	●	●				③ 河道掘削・拡幅、護岸整備、河川内の樹木伐採	●	●			河東、南郷地区
		●	●	●				④ 水田の貯留機能向上	●	●			市全域
				●		●		⑤ 水路・側溝の浚渫	●	●			市全域
					●			⑥ ため池の補強・改修	●	●			市全域
		●	●	●				⑦ ため池の有効活用	●	●			市全域
				●				⑧ 調整池の浚渫	●	●			市全域
		●	●	●				⑨ 利水ダム等における事前放流の運用	●	●			吉田ダム、多禮ダム、大井ダム
				●				⑩ ポンプ施設の整備	●	●			市全域
				●				⑪ 管路施設の整備	●	●			市全域
				●				⑫ 貯留施設の整備	●	●			市全域
					●			⑬ フラップゲートの設置	●	●			市全域
								⑭ 急傾斜地崩壊防止施設の管理・整備	●	●			市全域
								⑮ 砂防施設の整備	●	●			市全域
								⑯ 砂防指定地や急傾斜地崩壊危険区域の維持補修等を促進	●	●			市全域
								⑰ 治山事業の推進	●	●			市全域
		災害リスクの低減(ソフト)	避難計画検討、防災体制の充実、情報発信	●	●	●	●	●	●	⑱ 危険区域に立地する全ての要配慮者利用施設の計画作成及び避難訓練の実施	●	●	
●	●			●	●	●	●	⑲ 浸水及び土砂災害の状況、気象庁予報等の防災気象情報等の掲載情報、防災情報ダッシュボードの充実による早期避難の啓発	●	●			市全域
●	●			●	●	●	●	⑲ SNS等を活用した情報伝達手段の多様化	●	●			市全域
●	●			●	●	●	●	⑲ 災害時のリアルタイム情報の提供	●	●			市全域
●	●			●	●	●	●	⑲ 防災マップによる状況提供	●	●			市全域
●	●			●	●	●	●	⑲ 自主防災組織と連携した避難体制の構築や防災リーダーの確保育成の推進	●	●			市全域
					●			⑲ ため池浸水による被害が想定される場合は他の避難所の早期開設及び早期避難を呼びかける	●	●			市全域
								⑲ 土砂災害警戒区域等の周知	●	●			市全域

※1:宗像市雨に強い街づくりビジョン～雨水管理総合計画～に基づく重点対策地区